

磐梯山・西吾妻山山行報告書

(山域) 磐梯山・西吾妻山

(日時) 3月17日(土曜日)～3月18日(日曜日)

(コース) 3/17: 裏磐梯スキー場リフト山頂～イエローホール～磐梯山～リフト山頂
3/18: グランデスキー場上部リフト山頂～西大巔～西吾妻山～グランデスキーゴンドラ山頂

(天候) 3/17: 曇りのち晴れ 3/18: 晴れ

(参加者) CL: 内堀(記録)・小宮山

(山行タイム)

3/17: スキー場山頂 9:10～イエローホール 9:45～磐梯山 11:45～スキー場山頂 15:20

3/18: スキー場山頂 9:40～西大巔 10:55～西吾妻山 12:00～スキー場山頂 14:20

(山行報告)

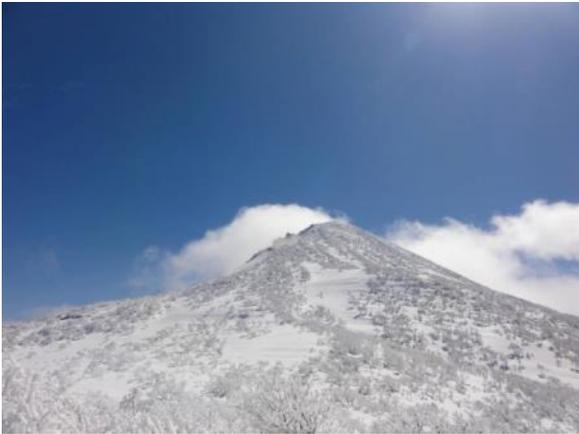
3月17日(土): 磐梯山山行報告

この週も盛岡の出張中で早めに帰宅して準備をする。千葉は小雨交じりである。自宅側のコンビニで待ち合わせして21:45頃、小宮山車が到着する。富里ICより東関道大栄JCTから圏央道に進み、常磐道・磐越道の猪苗代磐梯高原ICで降りて、近くのコンビニで酒と朝食・行動食を購入して、道の駅「猪苗代」で軽く飲むが、盛岡出張の帰りで、早々に爆睡してしまった。早朝6:10頃起床して、道の駅休憩室で朝食を頬張る。外から見る磐梯山は雲の中である。時折青い空が見える場所がある。これから良い天気になるだろうと思い、出発準備を整え出発する。道の駅より裏磐梯スキー場を目指す。裏磐梯に到着して裏磐梯スキー場入口に入ると、道路は一変して舗装しておらず道が悪い。2Kmの道のりも長く感じられ、車が上下・左右の振られながらようやくスキー場に到着した。スキー場の規模としては大きくない。登山靴を履き準備を整え、リフト券を購入する。登山者用の往復券が用意されており、1500円/人でした。まだスキー場には人がまばらで、直ぐリフトに乗り1本目、2本目と乗り、リフト山頂に到着した。何時もはスキーの板があるため、リフトを降りる時は難なく降りるが、スキー板が無いと感じが掴めず、左に逃げるのが難しい。こけそうである。人は少なく心配になるが、気を取り直してまずは、イエローホールを目指す。あかぬま湖を横切りが大丈夫なのだろうかと思うが、足跡や踏んだ感じが緩くない為、そのまま進む。途中、噴火口から蒸気が出ている。場所によっては硫化ガスの臭いが強く感じられた。イエローホールに到着して確認すると、氷が解けて崩れかかっていた。やはり今週の温かさで溶けたものと考えられる。本日は久々に寒く、-5℃近辺にあり寒く、雪も締まっていた。ここで、記念撮影を済ませ登山道に向かう。左に進むと急登が現れる。急登手前でアイゼンを装着して、登り始める。いきなりの急登で息が少し上がり、登ると足跡が2方向に別れる。前に歩いていた人達も左側を進んだため、我々も左に進むと、更に傾斜がきつくなり樹林も疎らになり、景色が開ける。山頂方面は雲で覆われており、何も見えない。ようやく尾根に到着する。尾根までは、夏道は破線ルートのようなものである。尾根に出ると櫛ヶ峰が目に飛び込み雄大さを感じさせる。尾根に入ると人はドンドン表れ、最初2-3人だったが、最後には数十人会う事になった。やはり人気の山なのか? 盛岡出張の疲れから腰の具合が良くなく、中々、テンポ良く上れない。何時になったら着くのだろうか?と登って行くと、小屋が出て来た。弘法清水小屋である。あとひと踏ん張り最後の峰が表れ、祠が見えた時は磐梯山と判った。少し風は強く、山頂の岡部小屋に少し降りて休憩を取る。この頃はまだ景色は今一つである。寒いね。記念撮影も終わったので早く降りようと、下山を開始する。山頂にスキーヤがいて、表磐梯方面に降りようとしていた。かなりの急斜面でスキーでなくてもかなり怖い。何時の間に、いなくなり、よく見るとその急斜面にシュプールがあった。降りたんだね。大丈夫だろうか? 心配してもしょうがない。弘法清水小屋から左側に折れて進む人達がいるので地図を確認すると確かにルートはあるので進むがお花畑と思われるルートを進むと、急に雪庇が表れ左側に進むと急斜面である。樹林が沢山あり恐怖感はないが、このまま降りるか?とロープを出して、安全確保して、再度地図を見ると、更に左側にいる事が判った。止めようと思い、元の道に戻るかが、降りるコースが見つけられず、弘法清水小屋手前まで戻ってしまった。かなりのタイムロスである。急いで登って

来た道を降りるが尾根道は雪が付いていない部分が多く、岩場にアイゼンと歩きにくい体勢で降りて行く。この頃になると山頂の景色も良く見え快晴そのものである。気持ちが良い。分岐に来て一気に下るが慎重にピッケルを突きながら進む。途中まで登りと同じであったが、左側の樹林帯方面に進むとステップが気ってあり、歩きやすく、急坂も容易に下りる事が出来た。この道が正解の様である。急坂を降りて湖手前でアイゼンを外し、最後の休憩を取る。一気に進むが、中々リフトまで届かない。平地が長いようである。何とかリフト山頂に着いたのは15:20と遅くなってしまった。リフト券についていた無料のコーヒ券は15:30までとなっていた。間に合うのだろうかと思い、リフトに乗るが食堂についたのが15:40頃と10分オーバであった。しかし、人が少ないせいか、再度、コーヒを作り直して頂いた。休憩後、横向温泉中の湯を目指す。途中コンビニで買い物を済ませ、入口に到着するが、中々風情のある入口である。進むと中の湯の建物が出て来て、駐車後、湯治場に進む。お母さんが出て来て案内を受け部屋に向かう。予約した時には、初めてですかと言われ、そうですと切り返すと止めた方が良いと思いますと宿泊を止められてしまった。大丈夫ですと言ってようやく予約が出来た次第であった。山小屋・テントで泊っている事を考えると天国である。風はない、コタツはある。温泉もある。料理するガスやレンジ・鍋・食器全て整っている、何が問題あるのだろうか？ 但し、部屋は埃っぽい。ダニでもいるのかな？ 温泉に浸かり、汗を流し部屋に戻り夕食の準備を進め、小宮山さんの指示の基、働かせられる。全て整った所で、ビールで乾杯して宴会が始まる。疲れていたせいか吸い込みが悪く、中々酒が進まず、22:00頃就寝してしまっ。毛布は掛ける気にはならずシュラフを掛け、その上から布団を掛けた。盛岡出張の疲れから爆睡してしまい、起床したのが6:00少し前であった。









3月18日（日）：西吾妻山山行報告

起床後、布団をしまい。朝食の準備をする。前夜の残りとうどんを食べるが、食いきれない。朝食後は急いで出発の準備を済ませ、会計を終わらせた。前夜宿泊した方々は3組であった。穴場である事は間違いないようであるが、やはり、食事無、自販機無では来るお客が少ないだろうと思った。7:40頃宿を出発して、グランデコスキー場を目指す。やはり遠い、30Km近くあった。駐車場に止め、登山準備を進め Gondra に向かう。切符を購入するのに10分程度掛り、Gondra に乗るのに15分程度掛ってしまった。人気のスキー場なのか、混んでいる。Gondra・リフトを乗継、リフト山頂に到着し、ここでアイゼンを装着する。秋に来た時は Gondra 降り口から右側進んだ記憶があるが、この日は直登気味に進み、最後は右側から西大巔（にしだいてん）に到着する。本日、快晴そのものである。西大巔は風が強く長くは居られず、西吾妻山をめざし、下降する。団体さんは西大巔を巻いて進んだようであり、我々の先に行ってしまった。今回、モンスターを期待してきたが、先週の暖冬影響からすっかり落ちてしまい、残念である。途中、西吾妻

避難小屋脇で休憩を取り、エネルギー補給した。休憩後は、西吾妻に進むがあつと言う間に到着する。山頂標識が雪で隠れているため、多分ここであろうと思う場所で記念撮影を行った。ここから見る、磐梯山は神々しい山である。磐梯山が男山であり、西吾妻は女山であろう事は言うまでもない。遠くに目をやると、ひときは雪が多い山脈がある。飯豊連峰と朝日連峰である。ここはやはり、東北の山である。飯豊・朝日が目の前に見えるとは、この景色中々、見られるものではない。昨日は見えなかったが本日晴天のお蔭である。この景色を見たいがために登っていると言っても過言ではない。今回カメラを忘れたのが残念である。下りは、一気に下りて西大巔を巻いて進み、リフト山頂に到着した。下りのリフトは使えず歩いてゴンドラまで降りるが、スキー・ボードを避けながらのグレンデ下りは結構難儀するものである。ゴンドラを乗り、一気に到着する。グランデコとは何かと思い、ネットで探すが、デコ平から取ったものである事が判った。スキーで来ると途中漕がなければならないくらいの場所であった。車を走らせ裏磐梯にある、温泉センター（最近できた場所）で汗を流し、渋滞もなく一気に帰葉する事が出来た。やはり、東北道で圏央道周りは渋滞もなく、スムーズである。4時間もかからず到着できるとは体に負担が少ない。また、ヤマレコでは3月でもモンスターが見えるとの記録から、山行を実施したが、今回は見られなかった。次回はモンスターを見るためには2月中の山行が良いことが判った。次回またチャレンジしたい物である。

